

研究主題

学びに目覚める子供たち

1 研究の経過について

1 研究主題と第1年次の研究の概要

学びに 目覚める 子供たち

本校では、昨年度より、生涯にわたって学び続けることの大切さに気付く子供を育てたいと考え研究主題「学びに目覚める子供たち」を設定し、3年計画の研究を開始した。「学ぶ」とは、「学び手自身の営みにより物事を理解すること」「学んだことを納得すること」「目標を見つけようとする」「新しい疑問を生み出し解決しようとする」とであると考え。

そこで、本研究においては、3年間の研究で目指す「学びに目覚めた子供の姿」を以下のように設定し、研究主題に迫ろうと考えた。

- 自分の思いや願い、よさや可能性を生かして、試行錯誤をしたり経験を積み重ねたりしながら、学びの楽しさや学ぶ喜びを味わっている子供
- 学んだことを確かめたり広げたりするために、納得するまで追究し、自分の見方や考え方を深めている子供
- 学ぶ意義を自覚している子供
- かかわりやつながりを生かして、学んだことをもとに自分の生活を見つめ直したり、学んだことを生活の中で使ったりして、新たな問いを見つけようとする子供
- 学んだことの成就感、満足感、次の学びへの期待を持つことができる子供

第1年次の 研究の概要

研究の第1年次である昨年度は、「学びに目覚めた子供の姿」に迫るために、具体的な授業や教師の支援を構想することを通して、「真の学び」とは何かを研究しようとした。そこで、「真の学びを問う」を研究副主題に掲げ、各教科領域で「真の学び」を探るとともに「学びに目覚めた子供たち」を目指し、授業を提案していくことにした。これまでの研究の成果と課題をまとめると次のようになる。

研究のねらい	成果として考えられること	課題
学びの楽しさ、学ぶ喜びを味わうこと	○成功体験が学びを深めること ○単元展開の工夫が、子供の成就感、達成感を高めること	●学びの実感をさらに充実させること ●学ぶ喜びを味わい続けるようにすること
自分の見方や考え方を持つこと	○学んでいる対象への自分の見方や考え方を持つことが一人一人の自信につながる ○単元途中でそれぞれの見方や考え方を表出することに意義があること	●自分の見方や考え方を確かなものにしていく工夫をすること
かかわりやつながりを生かして学びを進めること	○見方や考え方を広げるために学び合いや他とのかかわりが重要であること	●自分の学びにとって必要なかかわりを意識すること
学びを広げ、自分をより高めていくこと	○子供の学びを生かせる場を設定すると、自分をより高めていくという意欲が向上すること	●自分をより高めていくこととその高まりを意識できるようにすること

II 今年度の研究の概要

1 研究副主題の設定と研究のねらい

研究副主題

研究の第2年次である今年度は、研究主題である「学びに目覚める子供たち」に向け、「真の学びを問う」ことで得られた成果と課題をもとにして、子供一人一人が、「真の学び」をつかみとることができるよう、具体的な授業や教師の支援を構想し、実践していこうと考え、研究副主題を次のように設定した。

真の学びをつかむ

「真の学びをつかむ」ことは、子供たちが「学びに目覚める」ための第2のステップになる。そこで、「真の学びを問う」ことで得られた成果をもとにして、子供が自分や身の回りのものを見つめ直し、新たな問いを見い出しながら追究し続ける実践的な態度で学ぶことを「真の学びをつかむ」ととらえ、子供一人一人の学びが成立し学びを実感したり、子供が自分の学びをさらに深めたりすることができるよう、魅力ある授業を展開していく。そして、「真の学び」をつかんだ子供たちが、生涯にわたって学び続けながら成長していくことを目指していく。

研究のねらい

子供が「真の学びをつかむ」ためには、まず、子供一人一人の学びが成立していなければならない。その上で、自分の見方や考え方を明らかにしたり、まわりに働きかけて自分の学びを深めたりすることや、学んだことをその後の学びや生活に生かし、自分をより高めていこうとする態度を養うこと等、学びの質をより向上させることが必要である。そのためには、今まで以上に学ぶ主体である子供の立場に立って方策を工夫改善していくことが大切であると考えた。

そこで今年度は、研究副主題である「真の学びをつかむ」ことのために、以下の3点を研究のねらいとし、それぞれの方向性を明確にした上で具体策を提案していくことにする。

- (1) 子供一人一人の学びが成立するために
- (2) 子供一人一人が自分の学びを深めるために
- (3) 子供一人一人が学びを広げ、自分をより高めていくために

2 今年度の研究内容

(1) 子供一人一人の学びが成立するために

子供一人一人の学びを成立させるためには、まず、各教科等において「真の学び」を意識した授業を繰り返し実践することが大切である。その上で、子供たちが教師とともに自分の力を最大限に発揮することで、学びを実感したりさらに新たな「問い」を持ったりすることが必要である。また、それらが子供たちの成就感や満足感にもつながると考える。

そこで、以下のような方策を考えた。

- ア 学びの対象に出会い、思いや願いを「問い」として生かして追究し続ける工夫
昨年度の研究により、学びの楽しさや学ぶ喜びを味わうことは、子供の成功体

験の積み重ねに深くかかわっていることが分かった。また、このことは、子供の学びを成立させるための土台になっているものであるとも言える。

そこで、子供が新しい学びの対象に出会い、追究すべき「問い」を見つけ、自分の力で追究し、新たな学びを獲得できるような過程を、授業を通して明らかにしていくことを目指していくことを考えた。

ここでは、次のような方策を考えながら具体的な授業を実践する。

- 学びの対象への思いや願い、気付きを生かし、より手応えのある「問い」を作る工夫
- 生活の中から見出した思いや願いを「問い」として生かそうとする工夫
- 学ぶねらいを明確にする工夫
- 学びの対象へのイメージをふくらませる単元展開の工夫

イ 学びを実感し、学ぶ意欲を持ち続けようとする工夫

できなかったことができるようになったり、学んだことを生かして次の問いに挑戦したりすることの繰り返しが「自分の力でできる」という自信を高めていく。そして、学んだ成就感や満足感等の学びを進めた実感が、さらに新たな課題へ挑戦しようとする原動力になると考える。

ここでは、次のような方策を考えながら具体的な授業を実践する。

- 学ぶ意欲を持ち続けるような学習展開や教材の工夫
- 自分の力に応じて挑戦していけるような学習展開の工夫
- 子供が夢中になって活動できる場の工夫
- 学ぶ意義を感じたり学びの実感を持ったりするための評価の工夫

(2)
子供一人一人が自分の学びを深めるために

子供一人一人が自分の学びを深めるためには、自分の見方や考え方を確かにしていかなければならない。そのためには、まず、学びの対象に対しての自分の見方や考え方を明らかにしていくことが必要である。そして、それを授業の中で発表したり比べたりすることで、より自分の見方や考え方を深めていく。このことにより、自分らしい見方や考え方と自分とは違う見方や考え方のよさを見つけながら、より子供が学びを深めていくことになると考える。

そこで、以下のような方策を考えた。

ア 自分の見方や考え方を明らかにしていく工夫

自分の見方や考え方を明らかにしていくためには、まず、学んでいる内容についての自分の見方や考え方をしっかり持つことが大切である。そして、見方や考え方をはっきりと表したり、友達と互いに発信し合ったりする場が必要である。そこで、自分の考えを見直し、友達の考えとの共通点や相違点を明らかにしていくことが子供一人一人の学びを深めるのに有効であると考えられる。

ここでは、次のような方策を考えながら具体的な授業を実践する。

- 学びの対象に対する自分の見方や考え方を発信し合える活動の工夫
- 自他の見方や考え方の共通点・相違点を明らかにできる活動の工夫
- 自分の気付き、見方や考え方を整理し見直す場の設定

イ 他とのかかわりやつながりを自分の学びに生かしていく工夫

学びを深めていくためには、他とのかかわりやつながりを生かしていくことが大切である。そこで、学びの対象への出会い方や他とのかかわり方等を単元の中で工夫して、自分の見方や考え方をより深めたり、互いに協調し合ったりしながら、子供一人一人が自分の学びに自信を持ち、学びが深まっていることをより実感できるようにすることを目指していきたい。このことは、子供たちが自分の見方や考え方を見直すきっかけにもなる。また、子供が自分の学びをより生かしたり、逆に自分の学びに生かすために他にかかわりを求めていくような授業を工夫していくことも大切であるとする。

ここでは、次のような方策を考えながら具体的な授業を実践する。

- 自分と他の見方や考え方を比べ、自分の学びに生かしていけるような授業の設定
- 自分の学びが、友達の役に立っていたり、友達の学びが自分の学びを支えていることを実感したりできる授業の設定
- 教科や領域の特性に応じた見方や考え方を深める学び合いの工夫
- 個の学びと集団の学びをつなげる学習過程の工夫

(3)

子供一人一人が学びを
広げ、自分をより高
めていくために

子供一人一人が学びを広げ、自分をより高めていくためには、学んだことを自分の生活や学びに積極的に生かしたり、自分のその後の生き方に生かしていったりすることに焦点を当てる必要がある。そのため、授業においては、子供が、学んだことを生活の中に役立てたり、さらに視点を変えて試したりできるよう支援していく。また、自分自身の学びを理解し、自分をより高めていこうとすることも大切である。

そこで、以下のような方策を考えたい。

ア 学びが生き、広がることを楽しめるような工夫

学びが生き、広がることを楽しめるようになるためには、学んだ対象と自分とのかかわりを考え、子供が学びの成果を見直し、前向きに夢を持って自分の新たな学びを広げていくことが大切である。そして、子供が生涯にわたって学び続けることの大切さに気づき、さらにそこから生まれた新たな「問い」や夢を楽しみながら追究していった欲しいと願っている。

ここでは、次のような方策を考えながら具体的な授業を実践する。

- 学んだことと自分自身や自分の生活とのかかわりを考える場の設定
- 新たに生まれた「問い」を追究していく場の設定
- 学んだことやそこから生まれた「問い」を生活の中に生かし、解決を図るような学習展開の工夫

イ 子供が自分自身を理解し、自らをより高めようとするための工夫

学びを続けているときに、「自分は何がどこまで分かっているのか」「何が疑問で何が納得いかないのか」等、自らの興味・関心や進度を理解することは自分自身をより高めていくことにつながっていくと考えられる。

そこで、学んだことと自分とのかかわりを見つめ直し、子供がより自分自身を理解できるような実践をしていこうと考えたい。

ここでは、次のような方策を考えながら具体的な授業を実践する。

- 自分の学びを意識できるための工夫
- 自分自身の見方や考え方を振り返り、より自分を知るための工夫
- できるようになった自分を意識し、さらに未来に向かって学んでいこうとする意欲を高める工夫

**各教科等
における研
究の視点**

各教科等においては、研究のねらい(1)～(3)について研究し、単元や題材の展開を工夫したり授業の在り方を考えたりして、実践を重ねてきた。

ここでは、研究のねらいをもとにした各教科等における研究の視点を明らかにしておくことにする。

教科等	各教科等における研究の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人が自らの『読む力』を高めるための学習展開と支援の工夫 ○ 身に付けた国語の力を生かして自分の学びを深めるための教師の支援
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的事象に対するイメージをふくらませる単元展開の工夫と学習活動の設定 ○ 子供が社会とのかかわりを明らかにする支援の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の考えがつながるネットワークを通して数学的な見方や考え方を広げていく展開の在り方 ○ 学習のねらいを意識し、学びを実感する活動の在り方
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気付き・つながり・感動を大切にした単元の構想 ○ 理科を通して自らの成長を意識する活動の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動への思いや願いをふくらませ、学ぶことの楽しさを感じ、達成感や満足感を味わうことができる学習活動の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽の魅力を感じて、活動意欲を生みだしていくための授業展開の工夫、学んだことを整理する活動の工夫
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供の豊かなイメージを引き出す支援の在り方 ○ 子供が自らの豊かなイメージに気づき、表現への意欲を高める支援の在り方
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人やものへの思いやかかわりを深めて、生活を大切にすることや、生活に必要な力を身に付け、人のために役立つ喜びや達成感を学ぶことができる授業の在り方
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人的競技の集団化を通して他とかがわりながら「分かる、できる、伸びる」喜びを共有する授業の展開 ○ 自己の体力を知り、自ら進んで取り組む体力づくりの運動の推進
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳的価値と自分の生活との関連を重視し、よりよい自分の在り方を問い続ける授業過程の工夫 ○ 精選したねらいをもとにした、資料の作成や展開の工夫
特別 活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他とのかかわりから喜びをつなげ、取り組む意欲を高めていく活動の工夫 ○ 「もっと」の思いを生かして学びを進める活動の工夫
総合	<ul style="list-style-type: none"> ○ 追究する価値のある課題に高めるための過程と支援の在り方 ○ 体験でとらえた自分の学びを深めたり自分の成長を実感したりできるようにするための支援の在り方